

## 公民的分野

## 授業風景・分科会記録

1.代表質問(愛媛県松山市立南第二中山内)

「共感」から「行動」を目指し、教訓型・手本型・演習型など授業づくりの視点を明確にした取り組み、たいへん参考になった。また、今日の授業も、和やかな雰囲気、子どもたちの姿から、豊かな高松が見えてくるような気がした。質問「共感」のもつ意味は何か。どのレベルでとらえているのか。授業又は単元構成の中で、「共感」「行動」についてどのような考えで実践しているのか。

2.代表質問(徳島県小松島市立小松島中坂賀) 指導内容の構成の中で概念探究過程から意思決定過程という流れの横に、生徒がどのように心情を高めていったのかを記入しなければならないのではないか。手本となっている新田さんに失敗はなかったのかというようなことも心情を高める手段になるのではないか。東京都の発表について、ワークショップや屋台村方式導入の意義は何か。また、他者とのかわりとは、教材の中だけではなく、隣の友達や先生も含むのではないのか。

3.質問(兵庫県姫路市立朝日中) 「ともに」という価値の導入は意義があるものと思うが、意思決定が閉ざされたり、偏ったりするのではないのか。概念探究過程で得た価値が再び同じように出てきて整合性に欠けるように思うが。政治、経済、歴史、地理の積み重ねが欠けていると、「共感」の限界を超えられないのではないのか。

4.質問(愛知県名古屋市立) 型から円型へということだが、どういう見方や考え方を身につけて、今日の授業に生きていたのか。

5.質問(愛知県名古屋市立)基礎・基本は今日の授業の中の、またカリキュラムの中のどこでおさえるのか。

6.回答(東京社研)ワークショップや屋台村の意

義は、生徒の課題意識を高める、深める、ゆさぶるところにある。課題については、展開部でどのように導入するか、また年間計画をどう練るかということである。

7.回答(香中社高町) 「共感」については、他人の体験する環境や心理的状况を自分も同じように感じとること、他者の内部に入り込むことと考えている。「共感」は「行動」への呼び水になると承知している。価値の抽出のさせ方についてであるが、概念探究過程での価値の抽出は頭の中だけである。本当の意味で自分のものにするのが意思決定過程のねらいである。「ともに」という価値基準の導入について、いかに授業技術をこらして社会のシステムを伝えても、それを子どもたちが将来どのように利用するかが問題。社会科教師はもっと責任を持つべきである。よって、「ともに」を前面に押し出した。共感の限界について、確かに丹念に事実を積み重ねることは共感の高まりにつながる。しかし、もう多くの時間をかけるわけには行かない。それ故、今回のような授業型を提案し、また他分野と互いに補い合うために3年間の円型カリキュラムの開発に取り組んできた。基礎・基本については、それぞれの授業型の中でミニマムエッセンスをおさえる箇所を設けている。地理・歴史との関わりについては、カリキュラムの中で内容を中心に関連させている。地理的・歴史的な見方考え方をどう活用させるかを考えるには、公民的分野自身が公民的な見方考え方についてしっかりとした考えを持つことが必要である。

8意見(山口大学付属中) 円型カリキュラムは内容中心に考えているということだが、これを見方考え方とした場合どうなるのか。

9回答(高町) 試案だが、香中社では公民的な見方・考え方を、新学習指導要領に即し、政策と合意、自治と統合、公正と効率、厚生と利潤、理念と保護、対立と協調、開発と制御と考えている。

(文責 協和中 津山)